

護持会報告  
 報恩講  
 旅行報告  
 子供会報告

十月二十日(日) 午後十一時 勤修

詳細は2頁  
 詳細は3頁  
 詳細は4頁  
 詳細は4頁



総会絵解き



盂蘭盆会



盂蘭盆会勤行

**光照寺寺報**  
 発行所  
 真宗大谷派 弘興山  
 宗教法人光照寺  
 〒331-0821  
 さいたま市北区别所町102-2  
 電話：048-651-2781(代)  
 FAX：048-651-2753  
 E-mail  
 yasuragi@beige.ocn.ne.jp  
 ホームページ  
 http://koshoji76.jp  
 発行人 住職 池田孝三郎

# 護持会総会報告

淡海雅子

二〇二三年度第二十五回光照寺護持会総会が六月二十六日十三時から光照寺本堂において開会されました。

勤行に引き続き、会員全員で婦人部の皆様に合わせて仏教讃歌『真宗宗歌』を唱和しました。

ご住職様から世代交代もありましたが皆様のご支援で二十五回目になりましたことへのお礼のお言葉を賜りました。今年度も教えを聞いて頂ける機会を計画していますのでご参加頂きたいとお言葉がありました。



総会



婦人合唱



落語 三遊亭右左喜さん



絵解き

会長から護持会への協力の謝意がありました。年明けから能登地震が起きました。緊急時の対応を怠らないようにしようという挨拶がありました。

総会は平山正三氏を議長に議長に入りました。前年度の護持会の活動実績及び、護持会の収支決算と監査が報告され全会一致で承認されました。今年度の活動計画案及び、今年度の収支予算案が提案され何れも原案通り可決承認されました。今年度の親睦旅行は五月二十九日三〇日に『南無の国 越後(中越地方)を訪ねる』旅を致しました。親鸞聖人の足跡や良寛ゆかりの地を訪ねその地の真宗の歴史を学び、親睦を深めました。大塚

氏より聞法会・年間行事・サークル・子供会の紹介と参加のお誘いがありました。坊守池田恵美氏が会計を淡海雅子氏が会計監査に就任し、新たに庶務として三名が就任しました。



絵解きサークルによる「真宗ク

イズ」があり、真宗に関わる三折問題に傾きあり笑いありでした。引き続き『親鸞聖人一代記』と題して三遊亭右左喜さんの落語を拝聴しました。巧みな話術で皆を笑わせ、時には掛け合いになったりしながら親鸞聖人のご誕生から比叡山で修行期間のエピソードをお話頂きました。この先の話も伺ってみたいとの声があるほど盛況でした。最後に全員で仏教讃歌「恩徳讃」を唱和し閉会致しました。今後とも皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

## 親鸞聖人のみ教えに聞く会

- ・令和6年11月18日(月)
- ・午後1時30分～4時30分
- ・テキスト：『教行信証』
- ・講師：延塚知道先生(大谷大学名誉教授)
- ・会場：光照寺本堂
- ・会費：500円

※ご参加の方は事前に当寺へお申し込み下さい。人数を制限する場合があります。

本年も隆彰見先生(能登教区・聖徳寺住職)をお迎えして報恩講を

【報恩講は宗祖、親鸞聖人のご恩徳に報謝し、いのちの道理を深く尋ねる法要で、一年の中で最も大切な仏事です。真宗門徒として必ず勤める法要であり、光照寺の今年度最後の大きい法要です。是非ともご参詣下さい。】

報 恩 講

勤修致します。ご家族、縁者お誘い合わせの上、多くの方々のご参詣をお待ちしております。

住職(釋徹照)



ひと ち 歎 異 抄

羅漢:「回心えしんということ、ただひとたびあるべし。」とはいかに。第16章



「弥陀みだの智慧をたまわりて、本願をたのみまいらするをこそ、回心えしんとはもうしそうえ。」

川越喜多院の五百羅漢

報 恩 講

- ・10月20日(日)
- ・午前11時~3時頃(10時30分受付)
- ・場所 光照寺本堂
- ・法要勤修
- ・講師 隆 彰見先生(能登教区・聖徳寺住職)
- ・講題 「これからが これまでを 決める」

先生よりメッセージ:

「令和6年1月1日午後4時過ぎ能登半島地震が甚大な災害をもたらしました。言葉では言い表わす事の出来ない苦しみ、悲しみ、悼み、不安などを身に引き受けてのお生活を過ごしています。先達(ご先祖)も念仏とともに我が身にふりかかる事柄を身に引き受け歩まれ、諸仏となりお念仏を私達に届けてください、[能登は優しや土までも]また[土徳]と地域の言葉が生まれました。迷いの真つ只中に存在してる我らを、自然自然ありのまま、苦しい、悲しい、悼ましい中そのまま救わんとする仏様の願いに、無常だからこそ、今日一日いかされてあるいのちがありがたく、尊いおあじわいを頂きたいと思います。」合掌

※準備の都合上、出席の際は、10月12日までにお寺にご連絡下さい。

- 午前 10:30 受付
- 11:00 勤行
- 12:00 お齋(食事)
- 1:00 法話 質疑応答
- 3:00頃 終了予定



# 旅行報告

「2024年 光照寺旅行 南無の国 越後」

淡海雅子

久しぶりの光照寺旅行復活となりました。旅行を取り巻く環境も変わり行き先の決定、費用、旅行の意義と幹事間で協議を重ね今回実現出来ましたことに安堵いたしました。

何度か新潟へ親鸞聖人の足跡を訪ねる旅をしてきましたが、今回は地元久唱寺御住職様にご案内を頂きました。御自坊でのおもてなし、2日間に渡り地元ならではの目線でご案内を賜りました。親鸞聖人の教えがどのように受けとめられたか、そこに存続する寺の抱えた歴史的な課題、教義に対する相違など深く学ばせて頂きました。承元の法難で流罪の身として新潟で過ごされた親鸞聖人が法然上人の教えを浄土真宗として確立させていくための地が新潟での生活にあったのではないかと強く感じさせて頂きました。今私共が真宗に出会えることは歴史の流れの中で国家としての施策、民衆の動向、神仏他宗の関わりなど個的な思惑を超えた大きな力が働いていたからこそ承

継されてこられたことを訪ねた所々で深く考えさせられました。少人数の旅でしたが美味を堪能し共に教えの受けとめを吐露し旅が出来ましたことを光照寺御住職様に感謝申し上げます。  
(2024年5月29日(木)～30日(金) 三条別院等など弥彦温泉泊、旅行記)



久唱寺客間



久唱寺にて



三条別院本堂



三条別院



久唱寺本堂にて橘さん説明

光照寺子ども会、ポニークラブ、夏の夕涼み(カレー&花火)、大塚陽子  
残所厳しい中、八月十九日(月)大人十一名、小人八名の参加にて、三時半より受付、勤行に始まり前坊守挨拶、自己紹介の後、私が仏様の話で「私のいのちは何のおかげで生きている？」の問いで、人間は水や空気、太陽や地球や宇宙がなかつ

## 子供会報告



旅館にて



西照寺



たら存在しなかったし、多くのご先祖様のおかげで生きていること。先祖の一人欠けたら今の自分はいない。多くの縁や因によって生かされて、誰とも替わることのできないのちを生きているので、自分やすべてのいのちを尊重しようという話をしました。集合写真を撮り、前坊守による鍋いっぱいのカレーがたちまちになくなり、おいしく頂きました。急な雷雨の為、ヨーヨー釣りを本堂で行い、子供達は何度も挑戦して楽しみました。ますます雷雨が激しくなる中、駐車場にて多種類の花火で雨の音に負けずと子供達の歓声で盛り上りました。最後は、恩徳讃をして解散しました。次回は十二月二十二日(日)です。ご参加お待ちしております。



**鈴の音**  
 焼くとも失せもせぬ重宝じゆうぼう  
 は南無阿弥陀仏なり。  
 (蓮如上人御代記聞書)より

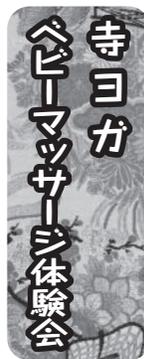


ヨガ



ベビーマッサージ

お寺でヨガを毎週月曜十時〜十一時開催しています。講師はトモヨ先生。ベビーマッサージ体験会を毎月第三火曜日十時三十分〜十一時三十分開催しています。講師は尚子先生。初めての方も歓迎です。ご興味の方は当寺までお問い合わせ下さい。



お知らせ

寺務所より

●報恩講

十月二十日(日)午前十一時より勤修。講師は隆彰見先生(能登教区・聖徳寺住職)

●修正会

二〇二五年一月一日元旦、午後一時より勤修。新年を阿弥陀如来のご尊前より出発致しますよう。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会

講師は延塚知道先生(大谷大学名誉教授)十一月十八日、午後一時三十分〜四時三十分。『教行信証』を学んでいます。ご参加の方は事前に当寺へご連絡下さい。会費五百円。

●大経の会

十月は報恩講、十一月五日。午後二時〜午後四時。講師は住職。細川巖著『正信偈讃仰』(七)を学んでいます。

●我聞の会

十月九日、十一月十三日、十二月十一日。午後二時〜四時。講師は住職。『歎異抄』を学んでいます。

●微風学舎

十月十六日、十一月二十日、十二月十八日。午後二時〜四時。講師は住職。『高僧和讃講義(三二)』延塚知道著を学んでいます。

◆真宗に学ぶつどい

十二月四日、午後一時三十分〜四時。会場は照誠寺、講師は洲崎善裕氏。

◆サークル

●聲明サークル、十一月二十七日。午後二時〜四時。講師は住職。

●絵解きサークル、十月二十三日、十二月二十日。

◆子供会

十二月二十二日(日)。冬休み企画。

◆テラヨガ

お寺でヨガ。毎週月曜十時〜十一時。講師トモヨ先生。興味ある方はお問い合わせ下さい。

◆ベビーマッサージ体験会

毎月第三火曜十時三十分〜十一時三十分、生後二ヶ月〜一歳位までの赤ちゃん対象。インストラクターは遠藤尚子先生。会場はお寺。興味ある方はお問い合わせ下さい。

◆お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご用意下さい。住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。

俳句・川柳

吉澤 光昭

わき立つは順位放送運動会

夕風に萩のささやく堤かな

この柄が好きだった母秋杵

航跡にたどる思いの秋落暉

平穏に帰り待ちけり神無月

短歌(詩)

佐々木 玄吾

高一の二人の子ども前に立ち

ナンプレ・習字われらに教う

九か月のダウン症の朔人君  
錬成会に 初参加する

釋尼 邦照 (前坊守)

年かさね 教育、ところ聞法に  
わかってもわからずとも  
今日行く  
教えに向かう

自己との対話

年かさね 教養 じあり寺まいり  
本尊に向き合い

自己との対話

篠原 潤子

夫好むうなぎ弁当仏前に

短歌掲載の全国紙とともに

神経痛効く温泉で湯治する  
三日で慣れる四十三度

ばばちゃんおじとおばは父と母  
足元ふらつく墓参四年目

温泉場となりの熟女Tシャツに  
欲望爆発我慢限界



桃 山田邦興 画

梵鐘

夏を迎えると古希を過ぎた今でも、子供の頃の夏休みを懐かしく思い出す。楽しかった川遊び、蝉取り、夏祭りなどが臉に浮かぶ。

一方、それらとは異質な光景も脳裏に浮かぶ。それは終戦記念日や原爆の日テレビの前で手を合わせる祖母の姿である。祖母が亡くなって四十年経った今でも、私ははつきり見える。祖母は息子を戦争で亡くした。私も同じく息子を亡くし、あの時の祖母の気持ちと一緒になれるようになった。

今、この瞬間も、世界のいたるところで血を流す争いが続いている。祖母の思いを継いで生きねばと思う。

合掌 藤原自雄